# 大気海洋波浪結合モデルのスーパー台風発達への最適化

### 課題責任者

森 信人 京都大学防災研究所

#### 著者

坂倉耕太\*1、二宮順一\*<sup>2</sup>、後藤浩二\*1、平 陽介\*1、志村智也\*<sup>3</sup>、撫佐昭裕\*<sup>1,4</sup>、竹見哲也 \*<sup>3</sup>、森 信人\*<sup>3</sup>

\*1日本電気株式会社, \*2金沢大学理工研究域, \*3京都大学防災研究所, \*4東北大学サイバーサイエンスセンター

#### 要旨

台風に起因する沿岸災害におけるマングローブの減災効果の定量的な評価のため、地球シミュレータ で効率的に実行できる高解像度大気海洋波浪結合モデルの開発を行った。大気、海洋および波浪モデル に対してベクトル化促進の最適化を行い、各モデルのベクトル化率を 96%, 99%および 94%を達成した。 この最適化により、地球シミュレータ 353 ノードを用いて、高解像度台風 Haiyan シミュレーションの 5 日積分が 21.7 時間で実行可能となった。本モデルを用いて、気候変動に伴う大型台風を想定し、台 風 Haiyan 級の大型台風がフィリピン他の地域へ上陸する場合を評価する手法の開発と検証を行った。

キーワード:モデル高度化, HPC 技術, 大気海洋波浪結合モデル, 台風 Haiyan

### 1. はじめに

台風は、洪水、地滑り、高波、高潮の原因となる主要 な気象災害の1つである。台風の大きさ、強度、経路に よっては、熱帯・亜熱帯およびの中緯度の広い範囲に壊 滅的な被害をもたらす。例えば、2013年にフィリピン へ上陸した台風 Haiyan によって、802百万ドルの経済 的な損失があっただけでなく、34,803人の死傷者・行 方不明者という非常に大きな人的被害があったことが 報告されている[1]。さらに、気候変動に伴い、台風が より強力になり、災害の規模の拡大が懸念されている [2]。このような台風による災害を軽減および防止する ためには、正確な数値予報モデルに基づくタイムリーか つ適切な警報、減災効果のあるインフラ(例えば、防波 堤などのグレイインフラやマングローブなどのグリー ンインフラ)の設置などが必要である。

本課題の目的は、台風による沿岸災害およびマングロ ーブの減災効果を評価するため、高解像度の大気海洋波 浪結合モデル(以降、COAWST 大規模モデルと呼ぶ)を開 発することである。

本年度は、平成29年度に開発した高解像度大気海洋 波浪結合モデルをベースに、さらなる演算性能の改善と 並列化効率の改善を行った。また、開発した高解像度大 気海洋波浪結合モデルを用いて、2013年の台風 Haiyan の再現実験を行った。さらに、台風の最大風速・最低気 圧などの台風強度に対する、大気モデルの地表面フラッ クススキーム、大気・海洋・波浪モデル間の相互作用の 効果および海洋混合層深さの影響などを調査した。

### 2. 高解像度大気海洋波浪結合モデルの開発

高解像度大気海洋波浪結合モデルは、USGS の COAWST モデルをベースとし、大気モデル(WRF[4])、海洋モデル (ROMS[5])、波浪モデル(SWAN[6])の各モデルコンポーネ

ントとそれらを結合するツールキット(MCT[7])から構 成されている。本結合モデルのパラメタ(解像度、格子) 数、使用スキーム、初期値・境界値データ等)を表1に 示す。本結合モデルを地球シミュレータ(ES)において効 率的に実行するには、VPU(Vector Processor Unit)[8] の利用効率と並列化効率の改善が必要である。昨年度は、 小規模モデルを対象に、VPU の利用効率を高めるため、 COAWST を構成する各モデルコンポーネントの演算特性 を VPU の使用状況を表す指標(ベクトル演算率とベクト ル長)をもとに解析し、これらの指標を高める実装方式 を検討・改良してきた。今年度は、COAWST 大規模モデ ルを対象に、さらなる演算性能改善を行った。大気・海 洋・波浪モデルの各ルーチンの最適化前後の性能を図 1 に示す。COAWST 大規模モデルで計算コストが大きかっ たルーチンを対象に VPU 利用効率改善の最適化を行い、 各ルーチンの実行時間を42%から99%削減した。さらに、 並列化効率改善のため、各モデルコンポーネントの演算 時間、通信時間および通信の待ち時間等のモデル間の負 荷バランスを解析し、負荷を均等化するように計算機資 源の配分を最適化した。これらの VPU の利用効率と並列 化効率の改善の最適化により、COAWST の各モデルコン ポーネント(WRF, ROMS, SWAN)のベクトル化率はそれぞ れ 96%, 99%, 94%まで向上し[9]、COAWST 大規模モデル を用いた台風 Haiyan の5日間のシミュレーションにお いても、ノード数を512ノードから353ノードに減らし て、実行時間21.7時間を達成した。

#### 3. 計算スキームとパラメタ

COAWST 大規模モデルを用いた、2013 年の台風 Haiyan のシミュレーションにおける、経路・最低気圧・最大風 速など再現性改善のため、地表面フラックススキーム、 大気・海洋・波浪モデル間の相互作用の効果および海洋 混合層深さによる影響などを調査した。一例として、図 3 に台風中心の海面気圧を示す。図 3(a)から地表面フ ラックススキームとして Monin-Obukhov Janjic Similarity scheme (sf\_sfclay\_physics=2)を使用した COAWST の結果(COAWST(sfclay=2)が最も観測値(Obs)に 近いことが分かる。しかし、観測値比べて、海面気圧が 低く、台風が過発達であることが分かる。台風の発達過 程における海洋混合層深さの影響を調べるため、海洋混 合層深さを平年値よりも大きく減らした場合を調べた。 その結果を図 3(b)に示す。海洋混合層深さを減らすこ とにより台風の発達が若干は抑えられたが、観測値とは 依然として差があり、この差の主な要因は海洋混合層深 さではないことが分かった。地表面フラックススキーム を含め使用したスキーム・パラメタを表 1に示す。

### 4. まとめと今後の予定

地球シミュレータにおいて大規模 COAWST モデルの開 発および計算性能最適化を実施した。また、WRF と ROMS のベクトル化率は、それぞれ 96%と 99%を達成した。ま た、地球シミュレータ 353 ノードを利用して台風 Hayian の高解像度の5日積分を約22時間で実行することがで きた。さらに、地表面フラックススキーム、大気・海洋・ 波浪モデル間の相互作用の効果および海洋混合層深さ による台風発達への影響を調べ、台風中心気圧の発達に 対して、海洋混合層深さの影響に比べて、地表面フラッ クススキームとモデル間の相互作用の効果は、大きいこ とが分かった。

今後の予定として、今回開発したモデルを用いて、台 風の特性に対する温暖化の影響を実験する。さらに、高 解像度モデルを開発し、高波、高潮におけるマングロー ブ林の減衰効果の実験を計画している。

### 謝辞

本研究の一部は、(独)環境再生保全機構の環境研究 総合推進費「グリーンインフラを用いた気候変動に伴う 沿岸災害の減災評価手法の開発」(2-1712)および科学 研究費補助金により実施された。

## 文献

[1] Mori, N., Kato, M., Kim, S., Mase, H., Shibutani, Y., Takemi, T., Tsuboki, K., and Yasuda, T., "Local amplification of storm surge by Super Typhoon Haiyan in Leyte Gulf, Geophys", Res. Lett., 41, 5106-5113, (2014). https://doi.org/10.1002/2014GL060689.

[2] Murakami, H., Mizuta, R., Shindo, E., "Future changes in tropical cyclone activity projected by multi-physics and multi-SST ensemble experiments using the 60 km-mesh MRI-AGCM", Climate Dynamics, Vol. 39, pp. 2569–2584, 2016.

[3] Nobuhito Mori, Tetsuya Takemi, "Impact assessment of

coastal hazards due to future changes of tropical cyclones in the North Pacific Ocean", Weather and Climate Extremes, Volume 11, 53-69, (2016)/

https://doi.org/10.1016/j.wace.2015.09.002.

[4] Skamarock, W. C., J. B. Klemp, J. Dudhia, D. O. Gill, D. M. Barker, M. G Duda, X.-Y. Huang, W. Wang, and J. G Powers, "A Description of the Advanced Research WRF Version 3", NCAR Tech. Note NCAR/TN-475+STR, (2008). http://dx.doi.org/10.5065/D68S4MVH

[5] Shchepetkin, A.F. and J.C. McWilliams, "The regional oceanic modeling system (ROMS): a split-explicit, free-surface, topography-following-coordinate oceanic model", Ocean Modelling, 9(4), 347-404, (2005).

[6] Booij, N., Holthuijsen, L.H. and Ris, R.C., "The SWAN wave model for shallow water. In: Proceedings of 24th International Conference on Coastal Engineering", vol. 1, 668–676, (1996).

[7] Larson, J., Jacob, R., & Ong, E., "The Model Coupling Toolkit: A New Fortran90 Toolkit for Building Multiphysics Parallel Coupled Models", The International Journal of High Performance Computing Applications, 19(3), 277-292, (2005). https://doi.org/10.1177/1094342005056115

[8] Ryusuke Egawa, Kazuhiko Komatsu, Shintaro Momose, Yoko Isobe, Akihiro Musa, Hiroyuki Takizawa, and Hiroaki Kobayashi., "Potential of a modern vector supercomputer for practical applications:performance evaluation of SX-ACE", The Journal of Supercomputing, 73(9), 3948-3976, (2017). https://doi.org/10.1007/s11227-017-1993-y

[9] S. Kumar Singh et al., "Optimizations of COAWST for a Large Simulation on the Earth Simulator", 2018 IEEE International Conference on Cluster Computing (CLUSTER), Belfast, 629-636, (2018),

DOI: 10.1109/CLUSTER.2018.00080

| 大気モデル (WRF)             |                                |                                 |  |  |  |  |
|-------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--|--|--|--|
| 項目名                     | 值                              | 項目名                             | 值  |  |  |  |
| 水平解像度                   | 領域 1∶3km<br>領域 2∶1km           | 地表面フラックス<br>(sf_sfclay_physics) | Monin-Obukho Janjic scheme                                       |  |  |  |
| 水平格子数                   | 領域 1:1334x667<br>領域 2:2001x705 | 大気境界層<br>(bl_pbl_physics)       | Mellor-Yamada-Janjic TKE scheme                                  |  |  |  |
| 鉛直層数                    | 55 層                           | 陸面<br>(sf_surface_physics)      | thermal diffusion scheme   |  |  |  |
| 雲微物理<br>(mp_physics)    | Lin et al. scheme              | 初期値・境界値データ                      | NCEP Final Analysis, MGDSST                                      |  |  |  |
| 短波放射<br>(ra_sw_physics) | Dudhia scheme                  | 地形データ                           | GTOP030  |  |  |  |
| 長波放射<br>(ra_lw_physics) | RRTM scheme                    |                                 |  |  |  |  |
|                         |                                |                                 |  |  |  |  |
| 項目名                     | 值                              | 項目名                             | 值  |  |  |  |
| 水平解像度                   | 領域 1:3km                       | 初期値・境界値<br>データ                  | SODA3.4.1 1/4deg 5day  |  |  |  |
| 水平格子数                   | 領域 1:1334x667                  | 海底地形データ                         | GEBCO  |  |  |  |
| 鉛直層数                    | 40 層                           |                                 |  |  |  |  |
| 波浪モデル (SWAN)            |                                |                                 |  |  |  |  |
| 項目名                     | 値                              | 項目名                             |  |  |  |  |
| 水平解像度                   | 領域 1: 3km                      | 浅海砕波                            | GEN3   |  |  |  |
| 水平格子数                   | 領域 1: 1334x667                 | 4 波共鳴相互作用                       | GEN3   |  |  |  |
| 方位分割数                   | 36                             | 3 波共鳴相互作用                       | GEN3   |  |  |  |
| 周波数分割数                  | 24                             | 波の指数関数的発達                       | KOMEN  |  |  |  |
| 波の線形的発達                 | GEN3                           | 伝播(移流)<br>(PROP)                | BSBT   |  |  |  |
| 白波砕波                    | GEN3                           | 初期値・境界値データ                      | 初期值: computed from local wind,<br>境界值: NOAA WWIII Global 30 min. |  |  |  |
| 海底摩擦                    | GEN3                           | 海底地形データ                         | GEBCO  |  |  |  |

表 1 モデルパラメタ

# 表 2 VPU 利用効率を改善するための最適化戦略一覧

| No. | 最適化戦略                     |
|-----|---------------------------|
| 1   | データ依存関係の除去                |
| 2   | 演算 do ループからの 10 文の除去      |
| 3   | 演算 do ループからのサブルーチン呼び出しの除去 |
| 4   | ループ入れ替え                   |
| 5   | ループ融合                     |
| 6   | if 分岐の最適化                 |
| 7   | メモリフットプリントの制御             |



図 1 大気・海洋・波浪モデルの各ルーチンの最適化前後の実行時間(6 時間積分での評価)。ルーチンの下の番号は、そのルーチンへ適用した最適化戦略(表 2 参照)である。



図 2 演算性能最適化と並列化効率改善のための各モデルコンポーネントへの計算機資源を割り当て の最適化による各モデルコンポーネントの実行時間削減効果(6時間積分での評価)。



図 3 台風 Haiyan 再現実験における台風中心の海面気圧。(a) 地表面フラックススキームと海洋・波 浪モデルの海面気圧への影響評価。WRF(sfclay=1)は大気モデルの地表面フラックススキームとして Monin-Obukhov Similarity scheme (sf\_sfclay\_physics=1)を使用した場合の結果。WRF(sfclay=2)は 大気モデルの地表面フラックススキームとして Monin-Obukhov-Janjic Similarity scheme (sf\_sfclay\_physics=2)を使用した場合の結果。COAWST(sfclay=2)は WRF(sfclay=2)に海洋・波浪モ デルを結合した COAWST の結果。(b) 海洋混合層深さの海面気圧への影響評価。Original は(a)の WRF(sfclay=2)の結果。mld06300 は海洋混合層深さを大きく減らした場合の結果。mld08300 は海 洋混合層深さを平年程度に減らした場合の結果。

# Optimization of Coupled Atmosphere-Ocean-Wave Model for Super Typhoon Development

**Project Representative** 

Nobuhito Mori Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

### Authors

Kota Sakakura<sup>1</sup>, Junichi Ninomiya<sup>2</sup>, Kouji Goto<sup>1</sup>, Yosuke Taira<sup>1</sup>, Tomoya Shimura<sup>3</sup>, Akihiro Musa<sup>1,4</sup>, Tetsuya Takemi<sup>2</sup>, Nobuhito Mori<sup>3</sup>

<sup>1</sup>NEC Corporation, <sup>2</sup>Kanazawa University, <sup>3</sup>Kyoto University, <sup>4</sup>Tohoku University

We have optimized the high-resolution, high-speed coupled atmosphere-ocean-wave model for typhoon modeling that was developed on the Earth Simulator for use in investigating the intensity of coastal damage caused by super typhoons and the effect of mangrove forests on reducing the intensity. This optimization increased the vectorization ratios of the atmosphere and ocean models from 95 to 96 % and from 96 to 99 %, respectively, which reduced the time needed for high-resolution simulation over the most intense five days of Typhoon Haiyan using 353 nodes of the Earth Simulator from about 24 hours to slightly less than 22 hours. Tuning of the computational schemes and parameters of the model enabled realistic reproduction of the physical phenomena of Typhoon Haiyan.

Keywords: Optimization, High-Performance Computing, Atmosphere-Ocean-Wave Coupled Model, Typhoon Haiyan

### 1. Introduction

Typhoons often cause dangerous storm surges and storm waves, which can claim many lives and severely damage infrastructure. The increasing strength of typhoons due to global warming is increasing the intensity of loss and damage [1]. To provide an understanding of the damage caused by more powerful typhoons and the mitigative effect of mangrove forests, we optimized the high-resolution high-speed coupled atmosphere-ocean-wave model (COAWST) [2] developed by the United States Geological Survey on the Earth Simulator [3, 4]. By increasing the vectorization ratios of the model, we were able to perform high-resolution simulation of Typhoon Haiyan with 30 % fewer nodes of the Earth Simulator in 10 % less time. Moreover, tuning the computational schemes and parameters of COAWST enabled the physical phenomena of Typhoon Haiyan to be realistically reproduced.

### 2. Optimization of COAWST

COAWST consists of the Weather Research and Forecasting (WRF) model [5], the regional ocean modeling system (ROMS) model [6], and the Simulating WAves Nearshore (SWAN) model [7]. Each model had previously been vectorized on the Earth Simulator [3, 4], and vectorization ratios of 95 %, 96 %, and 94 %, respectively, had been achieved. High-resolution simulation of the physical phenomena caused by Typhoon Haiyan over the most intense five days using a 3-km/1-km nested atmosphere model, a 3-km ocean model, and a 3-km wave model took about 24 hours using 512 nodes of the Earth Simulator.

We have now further vectorized the WRF and ROMS models, increasing the vectorization ratios to 96 % and 99 %, respectively. We also analyzed the parallel performance of COAWST and optimized the load-balance among the processes. The performance was best when the ratio of the number of nodes for ROMS, SWAN, and WRF was 1:4:10. As shown in Figure 1, the execution times of the SWAN and WRF models were reduced by more than half. This reduced the time needed to simulate the most intense five days of Typhoon Haiyan to 21.7 hours using 353 nodes, reductions of 10% and 30%, respectively.



Fig. 1: Effect of optimization on execution times

### 3. Computational schemes and parameters



Fig. 2: Sea level pressure of Typhoon Haiyan. (a): Surface realm layer scheme (sfclay=1) on WRF, (b): Surface realm layer scheme (sfclay=2) on WRF, (C): Surface realm layer scheme (sfclay=2) on COAWST.

| Parameters                | Atmosphere model (WRF)  | Ocean model (ROMS)           | Wave model (SWAN)          |
|---------------------------|---|------------------------------|----------------------------|
| Spatial resolution        | Region 1: 3 km,   | D 101                        | Region 1: 3 km             |
|                           | Region 2: 1 km  | Region I: 3 km               |                            |
| Number of grids           | Region 1: 1334 × 667  | D : 1 1224 (C7               | Region 1: 1334 × 667       |
|                           | Region 2: 2001 × 705  | Region1: 1334 × 007          |                            |
| Number of vertical layers | 55  | 40                           | 36                         |
| Initial and boundary data | NOED East Austria MODOOT  | CODA 241 1/4 4rd 5 4rd       | Computed from local winds, |
|                           | NCEP Final Analysis, MGDSS1   | SODA 3.4.1, 1/4 deg., 5 days | NOAA WWIII Global 30 min.  |
| Topographic data          | GTOP030   | ŒBCO                         | GEBCO                      |
| Schemes                   | Lin et al. scheme<br>Dudhia scheme<br>Monin-Obukho Janjic scheme<br>Mellor-Yamada-Janjic TKE scheme<br>fhermal diffusion scheme |                              | GEN3<br>KOMEN              |

Table 1: Computational schemes and parameters.

The computational schemes and parameters of COAWST (Table 1) were tuned in order to realistically reproduce the physical phenomena of Typhoon Haiyan. As an example, Fig. 2 shows the effect of the surface layer scheme (sfclay) on the sea level pressures of the typhoon. The pressure differed between schemes sfclay=1 and sfclay=2 on the WRF model. Scheme sfclay=2 reduced the sea level pressure. The used of sfclay=2 on COAWST is thus suitable for the two days during the typhoon development phase. We thus used this scheme in our simulation.

### 4. Summary

We have optimized the COAWST model that was developed on the Earth Simulator, thereby increasing the vectorization ratios of the WRF and ROMS models from 95 to 96 % and from 94 to 99 %, respectively. High-resolution simulation of the physical phenomena caused by Typhoon Haiyan during its most intense five days took 21.7 hours using 353 nodes of the Earth Simulator, reductions of 10 and 30 %, respectively. These results show that the time and resources needed to simulate typhoons can be reduced, thereby facilitating investigation of the damage caused under various scenarios.

Future work includes investigating the effects of global warming on typhoon intensity by simulation using the optimized COAWST model. It also includes developing a higher-resolution version of the model and using it to simulate the mitigative effects of mangrove forests.

### Acknowledgments

This research was supported by the Environment Research and Technology Development Fund of the Ministry of the Environment, Japan.

### References

[1] Murakami, H., Mizuta, R., Shindo, E., "Future changes in tropical cyclone activity projected by multi-physics and multi-SST ensemble experiments using the 60 km-mesh MRI-AGCM," Climate Dynamics, Vol. 39, pp. 2569–2584, 2016.

[2] Warner, J. C., Armstrong, B., He, R., Zambon, J. B., "Development of a Coupled Ocean-Atmosphere-Wave-Sediment Transport (COAWST) Modeling System," Ocean Modeling, Vol. 35, No. 3, pp. 230–244, 2010.

[3] Mori, N., Taira, Y., Takemi, T., Ninomiya, J., Sakakura, K., Musa, A., Watanabe, O., Goto, K., and Shimura, T., "Optimization of Atmosphere-Ocean-Wave Coupled Model Using HPC Technique," Annual Report of the Earth Simulator, April 2017–March 2018, pp. 69–70, 2019.

[4] Singh, K. S., Sakakura, K., Saha, S. Mathur, R., Sharma, C., Goto, K., Watanabe, O., Musa, A., "Optimizations of COAWST for a Large Simulation on the Earth Simulator," 2018 IEEE International Conference on Cluster Computing

(CLUSTER), Belfast, pp. 629-636, 2018.

[5] Skamarock, W. C., Klemp, J. B., Dudhia, J., Gill, D. O., Barker, D. M., Duda, M. G., Huang, X.-Y., Wang, W., and Powers, J. G., "A Description of the Advanced Research WRF Version 3," NCAR Tech. Note NCAR/TN-475+STR, p. 113, 2008.

[6] Shchepetkin, A. F. and McWilliams, J. C., "The regional oceanic modeling system (ROMS): a split-explicit, free-surface, topography-following-coordinate oceanic model," Ocean Modelling, Vol. 9, No. 4, pp. 347–404, 2005.

[7] Booij, N., Holthuijsen, L. H. and Ris, R. C., "The SWAN wave model for shallow water," In: Proceedings of 24th International Conference on Coastal Engineering, vol. 1, pp. 668–676, 1996.